

講演「世界のソーシャルワークは今」

藪長 千乃*・笹岡 眞弓*・森 和子*・山村 睦*

Key Words : ソーシャルワーク, グローバル・アジェンダ, 社会危機

これから、グローバルな世界の中におけるソーシャルワークについて、ソーシャルワークとは何か、そして、ソーシャルワーカーになることを真剣に考えてほしいことについてお話ししましょう。まずは、私の経歴をお話しした方がよいでしょう。私は1974年にイギリスのイングランドでソーシャルワーカーの資格を得て、それ以降、国内外での政策形成やソーシャルワークの実践にかかわってきました。10年ほどは、家庭での養護が不適切な子どもの家族への援助をしました。2006年から2010年までは国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）の会長を務めました。現在はIFSWの「ソーシャルワークと社会開発に向けたグローバル・アジェンダ」の策定作業を取りまとめる議長をしています。（写真1）

IFSWをご紹介します。IFSWは、1928年にフランスのパリで開催された大きな国際会議で誕生しました。会議は、3週間続き、最終的に3つの機関が設置されることになりました。国際ソーシャルワーカー常任事務局（現在のIFSW）と、IFSWにとって二つの国際連携機関となる、国際ソーシャルワーク学校連盟と国際社会福祉協議会です。常任事務局がIFSWとなったのは、1956年のミュンヘン会議のときのことです。そのときの会議の出席者で現在もご存命でいらっしゃる方は数少なくなりましたが、日本からはそのおひとり、中村先生がいらっしゃいました。これら3つの組織がグローバル・アジェンダへ向けて協力しています。これについては後ほどふれます。



写真1 基調講演を行うジョーンズ氏

* 人間学部人間福祉学科

I F S Wは、各国のソーシャルワーカーの専門職組織の連合体です。これには、労働組合も含まれますし、職能団体も含まれます。I F S Wは、1950年代以降、国連の諮問組織となることができました。これは非常に重要なことです。というのは目標を達成するためには実際に影響力を持つ協力者が重要だからです。私たちが目指しているのは、国内においても、国際的にも、草の根のソーシャルワークや社会開発の活動を広げていくことです。

I F S Wには、およそ80カ国のソーシャルワーカー組織が加盟しています。そして、50万人のソーシャルワーカーを代表しています。政策形成（これはウェブサイトに乗せています）、ソーシャルワークの倫理綱領と国際定義の決定と見直し、国連や世界保健機構や他の機関におけるアドボカシー、ソーシャルワーカーの各国組織の相互支援、世界会議・地域会議の開催、が任務となります。

さて、ここまで私自身とI F S Wについてご紹介しました。ここでソーシャルワークの本題に入りましょう。基本的な問題です。ソーシャルワークとは何か、そしてなぜ重要なのか、ということです。

ソーシャルワーカーの仕事を説明しようとするれば、とても単純です。困っている人の力になることです。でも、実際にはもっと複雑です。困っていることというのは、ときには非常に複雑で、精神障害や深い葛藤、暴力や児童虐待などの場合はとても深刻な状況になることもあります。障害や加齢のために複雑な問題を抱えるようになった人もいます。その人個人や周りの近い人たちを守るために、法的手段をとることも時には必要になります。つまり、ソーシャルワーカーは、人生の困難な転換期にある人たちを、ときには力や職権を使いながら解決に向けて手助けしていくといえるでしょう。また、ソーシャルワーカーは、家族や地域の人たちの権利と利益をはかりにかけなければなりません。これは、対立を生むこともあります。したがって、この仕事をするには、社会、医学の知識と技術が必要ですし、明確な倫理観を持つ必要があります。複雑な人間関係の中で仕事をしていくと、最終的に科学ではなく、成熟し、かつ優れた判断が必要となります。これらはすべてソーシャルワークの国際定義で示されています。スライドにあるように、実際の活動は、理論と調査研究だけでなく、人権と社会正義の原理に基づいて行われるのです（写真2）。

さて、私自身とI F S Wについての紹介、そしてソーシャルワークの実際についてお話ししてきましたが、ここで、世界で何が起きているのかについてももう少し詳しく見ていきたいと思います。特に、政策とソーシャルワークのなしうる貢献についてとりあげようと思います。

ソーシャルワーカーの日常業務は、ミクロレベルでは、個人や家族そして地域社会とか

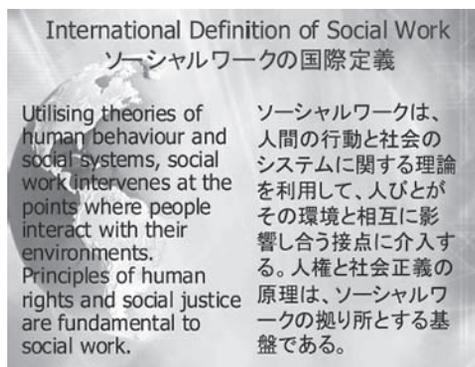


写真2 スライド6

かわります。しかし、今や、世界が相互につながり合っていることは誰もがわかるでしょう。いつでも安く世界各地とコミュニケーションがとれます。移動する人の数は実際に増えていきますし、かつてないほどの経済的移民や難民がいます。グローバリゼーションは私たちみんなが抱える現実なのです。そして、個人と家族と地域社会に直接影響を与えているのです。

グローバリゼーションは多くの利益をもたらします。しかし、試練や脅威や問題ももたらします。だからこそ、私たちみんなが世界で何が起きているかを深く理解することがとても重要です。私たちは、世界がどのように展開しているか、そしてそのときの政治的選択が地域社会の現実にとどのような影響を与えているかを理解しなければならぬし、そうした政策選択を人びとに知らせ、影響を及ぼすようにしなくてはなりません。国連や世界銀行での議論は、地域社会の状況や家族の出来事にすぐに影響を与えることができるのです。

現在の世界で何が起きているのか、お話ししましょう。皆さんもよくご存じでしょう。かいつまんでお話しをして、少し解説しましょう。

世界で起きている主な問題とは何でしょうか。

「国内、国外間の経済格差の広がり」、「世界規模の金融危機」—これは貧しく最も弱い人たちに一番打撃を与えています。「人びとの移動」—国境を超えた大規模な移動です。理由は様々ですが、経済的な動機の場合や、紛争やトラフィッキングから逃れようとした人もいます。「政治的、民主的、宗教的、領土上の問題から生まれる世界各地で長引く対立」。「気候変動、水不足、食糧難、エネルギー不足、ローン返済や負債によって生まれた新たな対立」。

そして、同時に私たち自身の生活やコミュニケーションのスタイルも急速に変わっています。早すぎて、把握しきれないぐらいです。まず、「知識と情報の広がり」—あまりにも多くの研究報告が発表されるようになって、「専門家」でさえもすべてを把握しきれないようになりました。「インターネットの普及を通じたソーシャルメディアによる人びとの結びつき」—これには専門職のネットワークも含まれます。さらに「インターネットや他の方法を使ったコミュニケーションパターンの変容」もあります。

しかし、知識や情報が増えれば増えるほど、そして、だからこそそのかもしれないかもしれませんが、私たちは確かさを失い、不安が大きくなっているのではないのでしょうか。より多くの知識を得ることが、より安心と安全を感じることに繋がらないのです。それは、私たち自身がどんなに多くのことを知らないでいるかということを示しているのではないのでしょうか。つまり、私たちは不安と不安定な状態が広がる時代にいます。

個人主義の時代とはいえ、人とひとのつながりや国際依存の関係はかつてないほど高まっていることはわかるでしょう。私たちは、個人であっても、世界との結びつきや世界各地からもたらされるものなしには選択もできないし自由も得られないのです。こうした国際社会からの影響力や世界で起こる出来事が社会を変えていくと、ソーシャルワーカーが直面する課題も変わっていきます。そして、仕事のやり方も変わっていきます。これまでみてきたように、私たち自身もみな、社会・経済・政治の秩序の中で相互に依存しあっているのです。

これらの変化すべて、そして触れられなかったそのほかの多くの変化は、大きな社会的圧力を生みだしています。そのいくつかは社会的な危機へ発展しています。これは国連の出版物ですが、このように国連も世界の社会危機について取り上げています。（写真3）

もちろん、簡単に解決できるものではありません。政治家たちも答えを探し求めています。問題は複雑で難しい。知識と技術を持った人びとが、反応し、「答え」ていく必要があるのです。

社会問題の変化は新しい考え方を必要とします。柔軟さと想像力です。これが専門家に限らず一般の人びとも不安に陥れることになるのです。

だからこそ、大切なもののいくつかは、変わらないことを心に留めておくことが役に立つのです。それらは変化への対応を迫られたとしても、変わらないのです。

人間が必要とするものと、行動は変わりません。食べ物や住むところ、高齢者をいたわる心などです。これは特に家族や地域社会で強く感じられるでしょう。私の経験から言えば、多くの人びとや地域社会は、形は違えども、基本的な価値観や理想を共有しています。個人や地域社会の違いは、ときには紛争による犠牲者を生みだしてきました。しかし、多くの宗教の根本的なあり方や人道的な考え、そして理想は残っているのです。ですから、どんなに違っていたとしても、多様性を尊重することが重要です。

このように地球規模で考えれば、ソーシャルワークはまさに地球規模の仕事です。ですから同時に、危機的状況に向きあわなくてはならないのです。私たちは、危機のカギとなる要素について、経験に基づきながら自分たちの手で分析を進めていかななくてはなりません。だから地球規模で話し合うのです。

それでは、これまでどのようなテーマで話し合われてきたでしょうか。ここで詳しくお話ししたいのですができません。ぜひ、ウェブサイトを見てください。アドレスを最後にお伝えします。

さて、2010年の香港での会議では、次のようなテーマについて話し合っていくことが承認されました。スライドをご覧ください。「人と人のかかわり」、「社会的経済的平等」、「環境の持続可能性」、「尊厳と多様性」です。（写真4）

ところで、ソーシャルワークとソーシャルワーカーは何か特別なことができるのでしょうか？最後にこれを検討して終わりにしましょう。ソーシャルワークと他の活動の決定的な

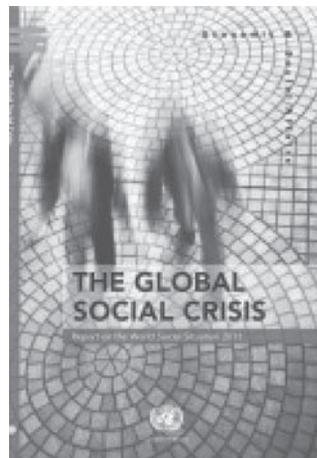


写真3 スライド 12（一部）



写真4 スライド 16（一部）

違いは何でしょうか。

ソーシャルワークには独自性もなければ、定義する必要もない、とする考え方もあります。たとえば看護や作業療法やボランティアのような、ほかの多くの対人援助の活動に用いられている一連の技術や実践の積み重ねが、一つに集められて体系化されたものということもできます。つまり、「看護」が看護師のすることであるのと同じように、「ソーシャルワーク」は、ソーシャルワーカーのすること、なのです。これで十分ではないでしょうか。

しかし、ソーシャルワークについて説明する必要がある、少なくとも二つあります。世界中でみられることですが、政治家やマスコミによってソーシャルワーカーの活動は不当に評価されています。こうした評価へどのように対応するかについて、統一的な見解が必要であることが分かってきました。よく言われることですが、多くの国ぐには、誰もが医者や教師や看護師を知っていても、ほとんどの人はソーシャルワーカーやその仕事を知らないのです。

したがって、ソーシャルワークをきちんと説明しようとする第一の理由は、それがソーシャルワーカー自身にとって必要だからです。ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティと連帯の精神、そして自尊心を高く持つために、ソーシャルワークの正式な定義が必要なのです。もう一つの理由は、継続的な公的財政基盤を得るためです。ソーシャルワークが公的な財政支援を得続けていくには、ソーシャルワーカーが何をしているのか、そしてどのように役に立っているかを政治家や人びとに知ってもらう必要があります。そして、人びとが支援や助言を求めて連絡をしてきたときに説明できるようにするためです。

ソーシャルワークの望ましいあり方とは、次のようなものです。

政策と実践を結びつける—今の公的な制度・政策の中で生まれる個人、家族あるいは地域社会のニーズを読み取り、一つひとつの答えを見出す、あるいは力になる技術を持つ。

研究や経験から得られた社会科学の知識に基づく。

個人や家族の支援、地域社会の和解やリスクマネジメントの技術を磨く。

利用者や他の専門職との間の込み入った関係の中でもやっていくことができる。

複雑さ、多様性、社会的リスクへ対応する技術がある。

地域社会の問題と地球規模の変化の流れを理解し、結びつけることができる。

ここで、アジェンダのプロセスの根底にあったことを思い出してください。なぜアジェンダに取り組むようになったのでしょうか。私たちは、多くの人へチャンスを広げると同時に、巨大な社会的問題ももたらす予測のつかない社会の変化と向かい合う中で活動しています。複雑な社会問題の答えを見つけるために、他者と働く中で熟練した専門職としていえるのは、私たちは人びとを力づけ、支え、その生活をよりよいものにする事へ全力を傾けなければ、解決にはつながらないということです。

ですから、やるしかないのです。社会変化とアジェンダは、受け入れ、やらなければならない

い私たちの課題なのです。

2010年の香港会議でのスローガンにもあるように、

一緒にこのアジェンダを作りませんか。

一緒にこの問題に取り組みませんか。

一緒に成長しませんか。

世界ソーシャルワーク・デーは、2012年3月20日です。このグローバル・アジェンダを皆さんの国や地域に合ったかたちで広めていきましょう、そしてこの世界中で行われる活動に参加しませんか。

日本のソーシャルワーク団体では、日本のソーシャルワークの日を別の日程に設定しているようですね。日付は重要ですから、それは当然のことです。ですが、もし3月20日に何か考えていらっしゃったら、ぜひ世界中で行われる他の世界ソーシャルワーカー・デーに参加してください。そして、スライドをご覧ください。もうひとつ、最新のソーシャルワークと社会開発に焦点を当てた示唆にあふれる会議がストックホルムで2012年7月8日から12日まで開催されます。興味を持って参加しようと思った人もいるのではないのでしょうか。今回は「アジェンダ：活動とその影響」に特に重点を置いています。(写真5)



写真5 スライド23(一部)

ぜひ、このアジェンダのプロセスに日本で取り組んでください。

ご清聴ありがとうございました。

解説

この講演は、2011年7月16日、文京学院大学ふじみ野キャンパスにて行われたシンポジウム「世界のソーシャルワークは今」で行われた基調講演の記録を翻訳したものである。基調講演は英語で行われ、藪長千乃と森和子が通訳を務めた。

その後、シンポジウム(司会 森和子)では、笹岡真弓、山村睦、藪長千乃がそれぞれ報告を行った。笹岡真弓は「日本の医療ソーシャルワーク」と題し、日本における医療ソーシャルワーカーの現状について報告した。続いて、山村睦が「社会福祉法人天竜厚生会の軌跡」と題し、日本の社会福祉施設の発達・展開と現状について、社会福祉法人天竜厚生会の事例を中心

に報告した。最後に藪長千乃が「日本の福祉の現状：国際比較の視点から」という題で日本の社会福祉制度の発達・展開と現状、課題について報告した。

基調講演を行ったディヴィッド・N・ジョーンズ氏Dr. David N Jonesは、国際ソーシャルワーカー連盟の会長を2006年から2010年まで4年間務め、現在も国際ソーシャルワーカー連盟のアジェンダ担当特別会長代理を務めており、国内外のソーシャルワーク専門職のネットワークに大きな影響力を発揮している。長年イギリスの児童福祉に携わり、イギリスの児童福祉政策の大改革において政府顧問として実施運営に優れた助言を提供し、政府勅任監査官などの要職を務めるとともに、国際ソーシャルワーカーの場面でも活躍されてきた。

以下、氏の略歴を述べる。

1974年に地方自治体の一般社会福祉業務に従事後、児童保護業務専門となる。全国児童虐待防止協会の特別対策ユニットで8年間務めた後、協会政策担当を務める。1985年にイギリスソーシャルワーカー協会事務局長。その後もイギリスソーシャルワーカー養成中央審議会CCETSW委員、1994年にCCETSWイングランド担当責任者に任命され、パーソナルサービス養成組織の設立等に尽力。1999年イングランド・ウェールズ福祉サービス監視委員会・監査委員副委員長、2004年「すべての子どもを大切にEvery Child Matters」政策（教育技能省）顧問、2007年教育水準局児童福祉担当勅任監査官。2009年2月教育水準局臨時副勅任主任監察官（児童担当）を務める。

1972年 オクスフォード大学卒業

1974年 ノッティンガム大学修士号取得、ソーシャルワーカー資格取得

2009年 ウォーリック大学博士号Ph. D取得

2010年 ロンドン大学教育研究所客員研究員

本報告は、ディヴィッド・N・ジョーンズ氏の表記講演原稿を翻訳し、解説を加えたものである。紀要掲載にあたっては、翻訳及び氏の写真と当日使用したスライド資料の転載について御快諾いただいた。ここに氏への心からの感謝を申し述べたい。

(2011.10.4受稿, 2011.11.2受理)